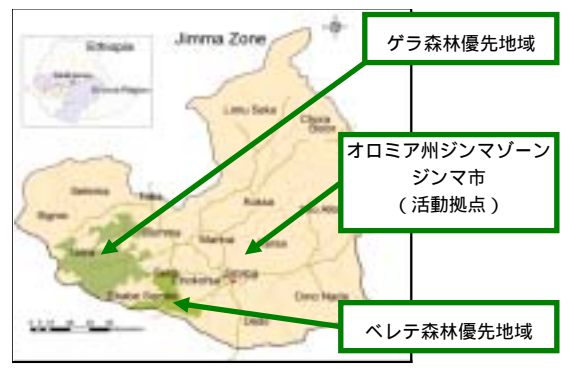


WaBuB PFM News

~ Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management ~

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2002 0 0 7年1月15日発行 (第2号)



明けましておめでとうございます！

・・・とは言っても、エチオピアには独自の暦があり、1999年の5月を迎えました。首都アジスアベバではクリスマスツリーが飾られた店などありましたが、我々の活動拠点であるジンマはそのようなしゃれた店も無い上に気候も暖かく、年末年始の雰囲気はあまり感じられませんでした。しかし、それでも新年は新年、何かしら新鮮な気分させてくれます。活動も3ヶ月目に入り、PFMワーキング・グループ協議や合同モニタリングといった活動が目白押しであったうえ、参加型森林管理ガイドラインや普及戦略の策定に向けた具体的な取り組みが始まりつつあります。ますます気を引き締め、質の高いプロジェクトの実施・達成に向けて励んでいく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

PFM ワーキング・グループ協議開催！！

エチオピア国内には、ベレテ・ゲラ PFM プロジェクト以外にも、幾つかの組織が「参加型森林管理(PFM)」に関わるプロジェクトを



実施しています。これらのプロジェクト間において情報(経験、教訓等)を共有することを目的に、PFM ワーキング・グループ(以下、PFM-WG)が形成されています。12月18日-19日の2日間、ベレテ・ゲラ PFM プロジェクトが主催し、ジンマで PFM-WG 協議が行われました。これまでに小規模な会議は、ほぼ毎月行われてきているものの、全てのプロジェクトが一同に会して話し合いを持つのは、約2年ぶりになります。それぞれのプロジェクトにおける進捗や成果を共有するのも大切ですが、この協議をきっかけに PFM-WG 全体としての具体的な活動に結びつけられるよう、我々は会議プログラム作りから積極的に関わってきました。特に、ベレテ・ゲラ PFM プロジェクトでは、ベレテ・ゲラ森林優先地域での活動に加え、オロミア州森林政策に貢献する「オロミア州参加型森林管理ガイドライン」の作成も目指していることから、その策定方針等について、PFM-WG のメンバー間で意見を出し合い、活動計画につなげることも目的としました。

オロミア州や南部諸民族州から政府代表者の他、FAO や GTZ といった援助組織、FARM Africa など NGO も含めて約13組織から60名程が参加し、各プロジェクトの活動内容について、積極的な議論が行われました。同じエチオピア国内であっても、場所が変われば森林の状態や住民の生計手段も様々です。そうした多様性に対処しながら住民主体による森林管理を普及していくことに、どのプロジェクトも苦心しており、改めて WG 間の協力の必要性が認識されました。また、2日目には小グループに分かれ、PFM-WG 全体としての4つの課題(右図)について活動計画、実施のための役割分担やスケジュールを立案しました。

~ PFM-WG 全体として活動を行う4課題 ~

- 州 PFM ガイドラインの作成
- PFM における効果的な住民組織のあり方
- 連邦や州政府の森林政策への提言
- PFM の効果や評価に向けた共同調査

2日間の協議の後、有志によるベレテ・ゲラ PFM プロジェクト対象村の訪問が行われました。20日にアファロ集落(ゲラ森林)、21日にチャフェ集落(ベレテ森林)を訪れ、WaBuB 代表者に対して森の利用方法や組織活動の内容についてインタビューを行ったほか、住民が利用している森の状態、管理方法を実際に見てもらいました。参加者からは、「住民組織の運営方法が似ており、共感できる点が非常に多い。」「如何に、住民が森を守ることによる恩恵を感じることができるとは、活動が継続していくための課題になるだろう。」「各プロジェクトで住民同士の訪問や意見交換を積極的に行なおう。」といった意見があげられ、現場の視点から、PFM に関わる成果や課題をより具体的に共有することができました。



WaBuB は、現地オロモ語で(地域住民により組織される)森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

ゲラ NOW 季節利用者との協議開始

アファロの森には、10月下旬から1月にかけて、コーヒーを収穫するために、多くの人々がやってきます。彼らは主にゲラ郡内の村々に住んでいて、この時期だけアファロの森を利用する「季節利用者」と呼ばれており、WaBuB アファロの会員 242 名の内 198 名を占めます。コーヒーの収穫時期以外は、アファロ村の住民が、季節利用者が利用している森を定期的に見回り、不審者による違法な伐採や山火事等を監視しています。アファロ森林が、「森林管理契約」にもとづいて、住民自身で管理・利用されていくためには、季節利用者の理解と協力が欠かせません。このため、WaBuB 執行委員会は、季節利用者が集まるこの時期に WaBuB 全体会議を開催しています。その中で、森林管理契約や内規の内容について、季節利用者への周知、定期的な森林巡回への参加要請、WaBuB 年会費の徴収等を行ないます。

住民が「森を守る」ことを意識するには、森からコーヒーや蜂蜜、スパイス等を収穫することで、収入が増え、住民の生計が向上することが大切です。WaBuB メンバーは、豊かな森の恩恵にあ



ずかっていますが、問題は収穫物売るマーケットが遠いことです。12月25日に行なわれた WaBuB と郡行政官との会議では、マーケティングサポートに関する提案が出されました。プロジェクトでは、今後、収穫物を WaBuB が共同で出荷する仕組みや、販売先の市場調査等をサポートしていく予定です。

ベレテ・ゲラの有用樹種 Bayaa (*Olea capensis*)

エチオピアの農村地域を車で走っていると、樹木に円筒形のものが吊るされているのを見かけます。初めは「何で太鼓がぶらさげているんだ?」「鳥避けのための飾りか何かかな?」などと考えていましたが、これは伝統的な養蜂箱(筒)で、この筒から取れる蜂蜜は、地域住民にとって貴重な現金収入源の1つです。ベレテ・ゲラでは、この養蜂箱に Bayaa (現地オロミア語での呼称)の木の樹皮を使うことが多く、3 - 4m 程の幅で Bayaa の周囲の樹皮を丸ごと剥ぎ(右上図)、5 - 6 個の養蜂箱の作成に使われます。約 50cm の幅で樹皮を切断し、紐で円筒状に型を整え、この周りに竹の皮を巻きつけて完成です(左下図)。



時折見られます。プロジェクト(フェーズ1)における村落振興活動の一環として、対象村落に据え置き改良型養蜂箱(採蜜の度に箱を廃棄することなく長期にわたって使用できる上、伝統法に比べて、年間約4~5倍の採蜜量が見込める)を普及し、森林資源の保全と住民の生計向上に向けた取り組みを行っています。

住民の生活にとっては欠かせない養蜂箱ですが、この Bayaa のように樹皮を丸ごと剥いでしまうと、樹木の中の養分や水分の経路が遮断されてしまい、生きていくことができません(日本では、特に広葉樹の間伐に用いる方法で、「環状剥皮(かんじょうはくひ)」や「巻き枯らし」と呼ばれます)。実際、立ち枯れた Bayaa も、森の中で

ベレテ NOW 第4回合同モニタリング

2005年8月に森林管理仮契約(翌06年8月に本契約)を締結して以来、WaBuB 代表者と郡の行政官との合同による森林モニタリングを半年毎に実施しています。12月27日と28日の2日間、チャフェ集落の住民が利用する森林での第4回目の合同モニタリングが行われました。主に、無許可の不適切な木の伐採や利用が行われていないかどうか、森の中を実際に歩きながら確認しました。

すでに3回の合同モニタリングを経験しており、住民の間でも森林保全への意識が少しずつ浸透してきているためか、以前、コーヒーの苗木を植えるために、樹木が伐採されたエリアで木々の天然更新が進んでいるなど、森の回復の様子が幾つか見られました。また、無許可の伐採(森林管理契約においては、住居の建て直しなどで木材が必要な場合、WaBuB の許可を得た上で、伐採することが認められています。)は見られませんが、伝統的養蜂箱作成のために樹皮を剥がれた木が1本あったほか、農機具を作る目的で根元部分が切り取られた木(右上図)が2本ありました。樹木の生長に影響は無いと住民は言っていますが、こうした伝統的な利用のどこまでを認めていいのかが、今後もモニタリングや森林の管理状況を見つつ判断していく必要があります。



特に WaBuB チャフェが懸念しているのが、近隣集落の住民による森林境界の侵害です。数年前まで森林だった場所がすっかり農地になっており、チャフェの森のすぐ側まで農地がせまってきているのが確認されました(右図)。このような問題の解決のためにも、WaBuB PFM を周辺村に早期に普及することの必要性を、改めて痛感させられました。



ジンマ大学との連携

プロジェクトの第1ステージ(1年間)における大きな目標である「WaBuB PFM ガイドライン」と「普及戦略」の策定に向けた準備の1つとして、地元ジンマ大学で自然資源や生態学を教えている若手講師4名と、これから約5ヶ月間、プロジェクト活動をサポートしてもらうための契約を結びました。4名とも PFM の経験は少ないものの、中には本プロジェクトが開始される前の開発調査(1996 - 98年に行われた JICA による森林管理計画の作成を主とした技術支援)でアシスタントとして活動した者もあり、ベレテ・ゲラ森林を良く知るメンバーです。これから5月末までプロジェクトに積極的に関わってもらい、PFM について互いに意見を出し合いながら、活動を進めていく予定です。また、4年後にプロジェクトが終結する際に、地元大学など地域の様々なりソース(資源)と協力し、ベレテ・ゲラの参加型森林管理を支援し合える仕組みを少しずつ築いていくこともねらいとしています。

2月中旬までの主な活動予定:

- 1/11: 萩原短期専門家(参加型森林管理・普及戦略)着任
- 1/末: ワークショップ(ガイドライン・普及戦略の概要策定)
- 2/初: ローカル NGO によるベレテ森林の生計向上調査開始

発行元: ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2 ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。

E-mail: belete-gera@ethionet.et

URL: <http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/>